

2012年10月3日

現在、三浦市民生活向上会議ボランティア活動推進部会では、ボランティア(市民活動)の振興策として①ヒト(人材育成)②モノ(施設・設備、活動場所)③カネ(活動資金)④情報(収集発信)⑤ボランティアセンターの充実—の5つの柱を想定している。そこで、この想定が、有効であるか否かを実証的に明らかにするためにアンケート調査を実施することとなった。

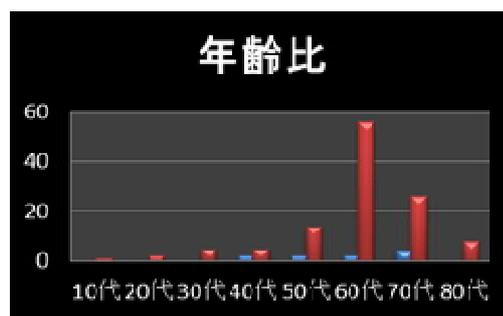
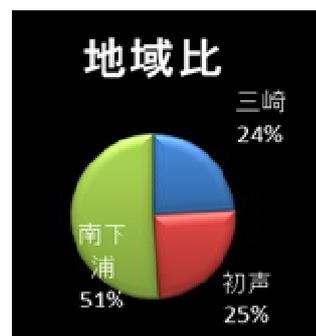
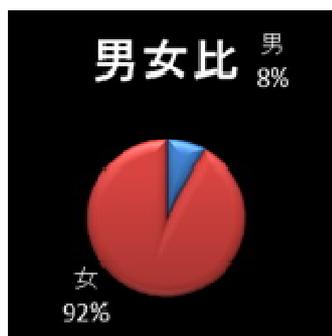
アンケート用紙原案を作成した事務局では、被調査者の負担感を減らせるよう、おおよそ10分程度で回答ができ、かつ、興味を引く工夫として「漫画」によるアンケート用紙を試作した。主人公である「ボラ君」の様々な経験を通して、社会問題を発見し、これに関与する様が一種の成長物語として語られていく。それを被調査者が追体験することによって「アンケートに回答する」ようになっているわけだ。なお、調査用紙(調査票)は①未活動経験者用と②活動経験者用に分け、それぞれに「属性(プロフィール)」と「設問」を設けている。

なお、本報告書の被調査者は、三浦市ボランティア連絡協議会に所属している団体である。調査用紙②の対象となる活動経験者である。

## 1 基本的属性

ボランティア連絡協議会所属の16団体(所属者数:326名)中、回答があったのは10団体。有効回答数は127。

ボラ協は、「ボランティア活動を通じて明るく心豊かな地域社会を築いていくために会員相互の親睦を図り、各種情報を交換し、連携し、研修をおこなうことによってボランティア活動の充実と促進を図ることを目的とする」団体である。会員は、「市内で活動するボランティア団体の構成員及び個人のボランティアで、本会(ボラ協)への加入を希望するもの」となっている。設立20周年を迎え、構成員の高齢化を懸念する声をしばしば耳にする。

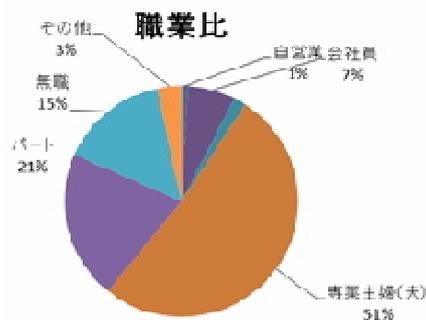


男女比は女性92%、男性8%と、女性が圧倒的に多い。回答の傾向について、社協の経験者(同じく女性の割合が高い)と似るところが多々見られた。地域比は南下浦在住者が半数以上を占めた。

年齢比は、60代以降が中心になっており、前述した「構成員の高齢化」を表しているようにも思われる。

2012年10月3日

職業比は、専業主婦が51%、パート21%、無職15%と続く。ちなみに、ボランティア経験者の一般市民についても専業主婦→パート→無職の順番に多い。ボランティアに参加しやすい職業の傾向が見える。

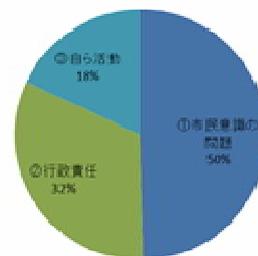


問1 社会問題に対する考え方(設問数:1)

この設問の狙いは、地域の課題に対する意識の持ち方が、経験者と未経験者の間で異なるのかを把握することである。本設問において我々は、未経験者に比べると、「自ら活動する」人が多いのではないかと— という仮説を立てている。何らかの課題を発見したとき、これまでの経験から、課題の解決に向けて実際に行動に移す人が、未経験者よりも多いと考えたからである。

設問1-社会問題に対する考え方

結果、①市民一人ひとりの意識の問題との回答が最も多く、半数を占めた。続いて②「行政責任」、③「自ら活動する」という順番になった。この順番は今までアンケートをとってきた経験者・未経験者の回答と同じである。ちなみに、「自ら活動する」人の割合は最も多かったが、大きな差は出なかった。



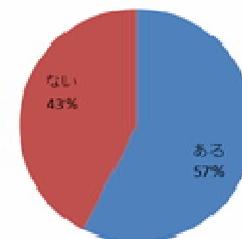
社協職員同様、経験者からすると、自ら解決する・あるいは行政に整備を求めるといよりは、その多くが住民の責任感に基づく問題であり、その意識から根本的に変えていかなければ解決できない問題であるという判断に至ったのかもしれない。

問2 「人材育成」について(設問数:3)

ボランティア関連講座の受講経験の有無と、「受講経験者」に「講座が実際の活動に結び付いたか」を尋ねた。狙いは、講座の受講率と活動を始める「きっかけ」として、それが有効なのかどうかを知ることにある。

設問2-講座の受講経験

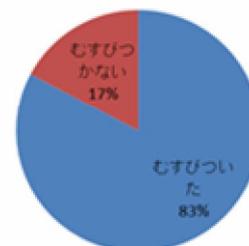
本設問において我々は、講座は実際の活動に少なからず貢献するものの、実際に受けたことがある人は少ないのではないかと— という仮説を立てた。



結果は、受講経験者が約6割に上った。他よりも割合が高くなったのは、ボラ協関連機関・団体が主催する講習の多さと、確実な情報網にあるのではないかと。「ボラ協関連機関・団体が主催する講座」には、①ボラ協の研修部会が主催する講習②手話サークルなど、ボラ協に登録している各団体が主催する講習を自らも聴講③ボラ協に登録している人は、それ以外の地域活動にも積極的に参加している。その、ボラ協の範囲の外の機関・団体が主催する、地域活動に役立つ講座— などがあると考えられる。それらの情報の多くが、連絡網により各団体に確実に伝わる。

設問2-2講座が活動に結び付いたか

また、ボラ協の回答者は全員、現役でボランティア活



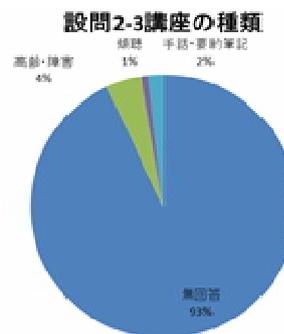
2012年10月3日

動を行っている人である。今までボランティア活動をしたことがある回答者も含まれている、ボラ協以外の総意と比べると、ボランティアに対する興味・探究心が強いのではないだろうか。

講座が実際の活動に結びついたかという設問については、「結びついた」が83%に上った。他の回答傾向と同様、経験者にとって講座の受講は、実際の活動に結びつきやすいということが分かった。

なお、本設問において、今後受けてみたい講座についても尋ね、講座を企画するにあたり具体的なニーズを探ろうとした。結果、93%が無回答。それ以外の興味もばらけたため、人気があるジャンルや具体的な興味は掴めなかった。

ボランティア活動を長くしている人々にとっては、学ぶよりも実践に時間を割きたいと思うのかもしれない。しかしながら、講座自体は受けたことがある人が多いこと、また、受けると実践に繋がることは証明されたので、今後も講座についてはおろそかにできない。そして、情報が届いてから初めて「受けない！」と思って貰えるかもしれないので、講座を開催する際には、人的ネットワークを使って情報を広めることが大切であると考えます。



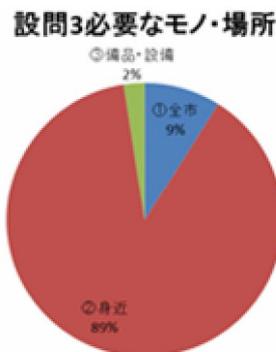
### 問3 「モノ・場所」について (設問数：2)

本設問では、活動をする上で、「全市的な活動場所」「身近な活動場所」「備品・設備」の中から、最も必要な物的資源は何かを尋ねた。また、活動場所の使用料についても尋ねた。

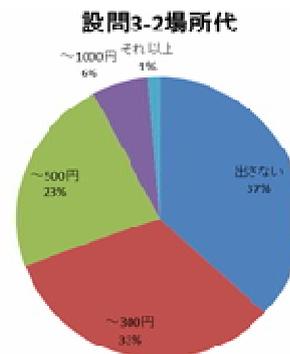
狙いは、今後社協が意識して充実を目指していくべきモノ・場所は何なのかを知ることにある。また、そのモノ・場所にくらまでお金を出せるかを知ること、より効率的に整備を進めたいと考えた。整備をしても結果的に使ってもらえなかったということを防ぐためである。

我々は本設問において、「身近な活動場所」が最も必要。近所に無料で気軽に借りられる活動拠点が欲しい— という回答が多いのではないかとこの仮説を立てていた。

結果、予想通り9割近くが「身近な活動場所」と回答。日頃地域に根ざした活動を行っているボランティア団体所属者にとって、近所の活動拠点が欠かせないということが分かった。



また、場所代をいくらまで負担できるかという質問については、出したくない人が37%、300円までが33%という結果になり、ここまですべての三分の二を占めている。支払意思額は194円と、市や社協の半額以下である。継続的かつ定期的な活動を行うには200円以下が適当、ということが分かった。



2012年10月3日

問4 「活動資金」について(設問数: 2)

ボランティア活動におけるお金のあり方について尋ねた。本設問の狙いは、市民はどの程度まで金銭を負担できるのか。その金銭感覚は、経験者と未経験者で異なるのかを探ることにある。

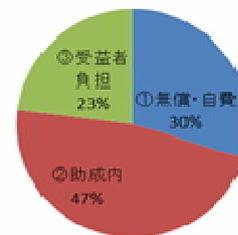
また、市や社協にどの程度自分たちの頑張りを評価して欲しいと思っているのかも知りたい。

我々は、無償・自費で活動したいとする人は少なく、市や社協の助成内で活動したい人が多く、場所代よりも、活動費用の方が負担できる額が高くなるのではないかと仮説を立てていた。

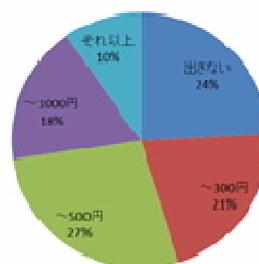
また、受益者負担と考える人はとても少なく、未経験者の方が無償・自費で行うものであると考え、経験者は、ボランティアをある種の「委託事業」のように捉えているのではないかと考えていた。

結果、「市や社協の助成内」で行いたい人が約半分を占めた。次いで「無償・自費」が3割。活動負担額については、支払意思額は396円になった。場所代同様、他と比べると低い金額となった。無理のない金額は400円程度ということだろう。

設問4活動資金の出処



設問4-2 活動負担額



問5 「情報」について(設問数: 2)

本設問の狙いは、ボランティア活動を実践する人にとっての最も得たい情報を、最も伝わりやすい媒体で広められるようにすることである。ここで我々は、得たい情報は活動内容によって異なるので、バランスよく分かれるのではないかと仮説を立てた。

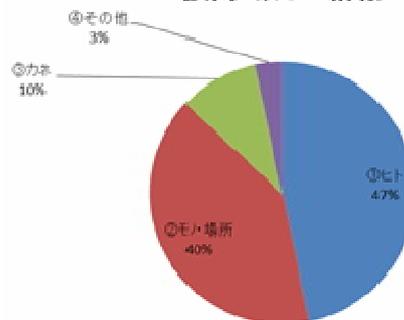
結果、社協職員・市民経験者同様、①ヒトと②モノ・場所に意見が集中した。講座などの情報と、使える施設・設備の情報が重視されているようだ。

次に、普段ボランティアに関する情報を何で得ているかについて尋ねた。ここでの仮説は、実際に活動に結び付いている人は、口コミで情報を得ている人が多いというものである。インターネットについては、つい最近三浦市社協HPで市内のボランティア活動について掲載するようになったが、他の市(例えば横浜市など)と比べると、単発のボランティアや、福祉系以外のボランティアなどの情報が少ない。年代・性別によっては(他市の情報などを)目にする機会も多いかもしれないが、何となく尻込みしてしまい、活動の実施には漕ぎ着けにくいと考える。また、ボラ協には高齢者の女性が多い。インターネットを普段あまり利用しない人が多いのではないかと推測する。

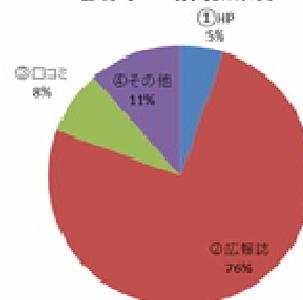
また、活動を始めるきっかけとして、「①友人・知人の誘い」が多いと予想している。そのまま友人・知人から情報を得て、一緒に行くことが多いのではないかと推測する。

結果、広報紙が76%を占めた。設問7では、やはり「①友人・知人の誘い」が58%と多

設問5欲しい情報



設問5-2情報媒体



2012年10月3日

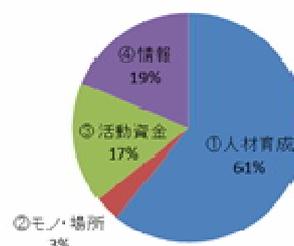
く、それ以外の回答はばらけた。社協経験者同様、活動の2回目以降については、地元の広報紙で身近な地域の活動を探して、自力で参加に至る人が多いということだろう。

今後の社協の仕事としては、HPの充実とその効果の測定に力を入れるとともに、今後も広報紙「社協みうら」の紙媒体の情報もおろそかにしないようにしたい。

問6 最も大切な「ボランティア振興策」とは(設問数: 1)

今までに尋ねてきた「①ヒト(人材育成)」「②モノ・場所」「③カネ(活動資金)」「④情報」の中で、今最も充実させるべきはどれなのかを問うた。狙いは、計画での実行の優先順位を考えることにある。ここでの仮説は、「②場所」「③カネ」の順位が高い。「④情報」の潜在的ニーズは高いが、充実したことによる利益が想像し辛く、結果にはあまり響かないというものであった。

設問6ボラ振興策



結果、「①ヒト(人材育成)」に意見が集中した。普段から人材不足に関する話を多く耳にしていたため、今思うと当然の結果だと思う。しかし、現在の社協からボランティア活動団体への決まりきった支援としては、細かい審査を行う「助成金申請事業」があり、それについて直接的な意見(「去年より他の助成額が少ないので減らさないで欲しい」「この助成金をなくされると困る」等)を聞いたり、申請書類から読み取る機会がある。それらの意見は全てが結果に反映されないにしても、必ず「助成金申請事業」における意見である、と判断される。

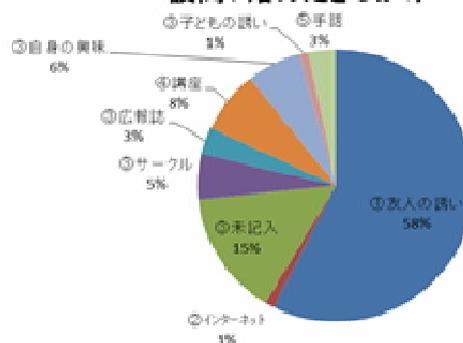
一方「人材育成の促進」についての意見は、耳にしても、「実際にこういうことを社協で行う」という、現実的な「事業」にまで結び付かない。また、「人材育成」に近いようなことを社協や他団体がやっても、結果が見えにくい。今のところ、人々が何となく持つ「人材が育成された像」の人間は満足に排出されていないということだろう。

今後は、各団体が実施している講座と連携し、ステップアップを図れるようなプログラムを組むなどして、分かりやすく人材育成に力を入れていきたい。

問7 きっかけについて(設問数: 1)

ボランティア活動を始めたきっかけについて尋ねた。狙いは、実際に活動をしている人がどうやって活動を始めたのかを知ることで、未経験者をどのように活動へ誘うのが有効なのかを探ることができるのではないかと考えた。

設問7始めたきっかけ



ここでは「①友人・知人に誘われて」とする回答が最も多いのではないかと一時的な仮説を立てた。何かを始めるときには、誰かに「大丈夫」と背中を押して貰わないと踏み出しにくいのではないかと。若い年代であれば、授業の一環などで強制的に始める人が多くなる。

結果、予想通り「①友人・知人の誘い」が最も多く58%で、それ以外の意見はばらけた。やはり始めるきっかけとしては、興味を抱いている未経験者が、①経験者に会って「やってみない?」と誘われること、②潜在的に興味を抱いている人同士が会って、「一緒にやってみよう」となること一など、人に結び付くことが、実際の活動に踏み出しやすくなるきっかけになることが考えられる。

2012年10月3日

問8 やめた理由について(設問数: 1)

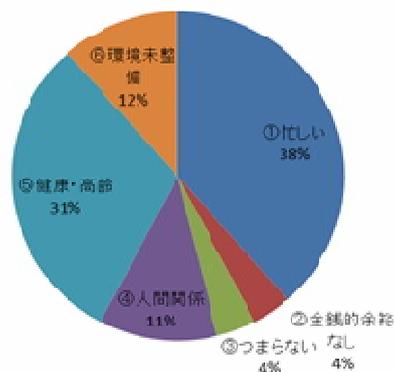
以前やっていたボランティア活動をやめた理由を尋ねた。狙いは、どのような状況であれば、活動を続けられるのかを知り、ボランティアの需給調整に役立てることにある。ここでの仮説は、アンケートに答えられる人の中となると、「①忙しい・暇がない」が多いというものである。潜在的には、高齢になっても長く活動を続けている人をよく目にしており、市内の高齢化率も29.89%(H24年6月1日現在)と高いため、「⑤健康を害した・高齢になった」人も多いのではないかと。また、「③つまらなかった」「④人間関係のもつれ」も、答えにくい但实际上にはよくあるのではないかと。

結果、「①忙しい」が38%で最も多く、「⑤健康を害した・高齢になった」が31%、「⑥三浦市にはボランティアをする環境が整っていない」12%、「④人間関係のもつれ」11%と続いた。

他同様、「①忙しい」が最も多く、やはり時間に余裕がない人にとって、継続的な参加は難しいようである。しかしながら、忙しくなり一度はボランティア活動から退いた人であっても、再び時間に余裕ができたなら、またボランティア活動をしてもらえる可能性がある。そのため、若い人たちへの情報提供もおさなりにしてはならないだろう。

なお、ボラ協と市民の経験者については、「⑥ボランティア環境の未整備」の意見が多い。地域に根ざした活動を主に行っている人々にとっては、三浦市内でのボランティアはやりにくいものなのだろう。計画を立て、早急に整備を進めていくべきであると感じた。

設問8やめた理由



問9 社協に望むこと(設問数: 2)

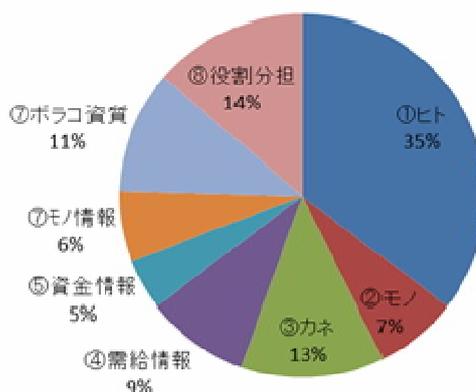
ボランティアセンター(三浦市社協)に最も力を入れて欲しいことは何なのかを尋ねた。

狙いは、情報、ヒト、モノ、カネ、ボランティアセンターという、計画の柱に据えたいと考えている機能が、市民にとって本当に必要とされているのかを知りたいというもの。

また、計画における実行の優先順位をつけたい。仮説は、「③カネ」か「④情報(人材需給調整)」が多く、市(問10)とは何となく異なる分布になるというもの。普段のボランティア活動において、「市」と「社協」の違いを意識する機会がないので、今必要であると考えている(市や社協など)他からの支援の中の、ベスト1と2を両者に振り分けようとするのではないかと。

結果、「①ヒト(各種講座の開催など、人材育成)」と答えた人が3分の1以上となった。そして「⑧市と社協の役割分担」「③カネ(活動助成と民間資金情報の提供)」と続いた。「①ヒト(人材育成)」が最も多いのは、社協職員・市民経験者と同じ結果である。一方、ボラ

設問9 三浦市社協に望むこと



2012年10月3日

協において「⑧市と社協の役割分担」の回答が少し多かった。ボランティア団体支援の窓口として市と社協の2か所があるが、何かあったときにどちらを頼っていいものか、分りにくいのだろう。

また、他と比較すると「③カネ(活動助成と民間資金情報の提供)」も意見が集まった。個人として活動するか、団体として(継続的に。運営的な視点も含めて)活動するかによって助成金の必要性は変わるのだろう。

それ以外の選択肢はばらけているが、「⑥情報3(施設設備・活動場所の情報)」のみ票が入っていない。

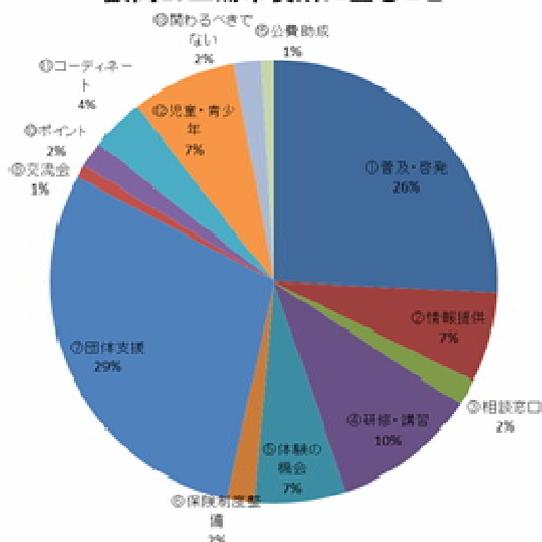
問10 市役所に望むこと(設問数:1)

狙いは、市民が(何となく)抱く「市が担うべき役割」が何かを知り、三浦市社協との役割分担を考えることにある。ここでの仮説は、「①市民への普及・啓発」「⑦ボランティア団体への支援(活動場所の整備や活動資金の補助等)」が多いというもの。耳なじみの薄い「社協」よりは、「公」の方に、人手不足解消のための広い範囲への呼びかけをして欲しいと思うのではないだろうか。

結果は、「⑦ボランティア団体への支援」29%と「①市民への普及・啓発」26%が多く、それ以外は意見がばらけた。社協職員同様、団体への幅広い支援が必要とされていることが分かる。また、市民へ広くきかけづくりを行うことが重視されている。

「⑦ボランティア団体への支援」とは、様々な選択肢を包含した回答である。ボランティア団体も、具体的に自分たちに何をして欲しいか?と聞かれると、「して貰えることは何だってして欲しい」と思うのが筋だろう。計画策定にあたって、実施する支援の優先順位については、この設問で次に多かった「市民への啓発」や、他の設問から読み取れたニーズを重視していきたい。

設問10三浦市役所に望むこと



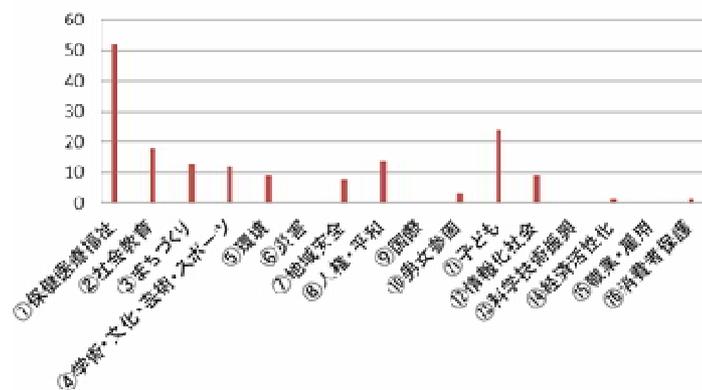
問11 ボランティア活動の種類について(設問数:1)

今やっている、あるいは以前やっていた活動の種類について尋ねた。狙いは、どういった種類の活動が参加しやすいのかを知り、新しい人の「きっかけ」となりやすい活動は何かを考えることにある。ここでの仮説は、男女で分布が異なる。女性は「①保健医療福祉」「⑩子ども」、男性は「⑥環境保全」が多いのではないかと。女性は、自分の子育ての経験を活かしたボランティアをしたいのではないかと。また、ボランティア=福祉的なものというイメージで活動を探す人も多いと思う。ボラ協の登録団体は現在全て福祉的な活動団体であるため、今回はそれが更に色濃く出ると思う。

結果、「①保健医療福祉」が圧倒的に多く、「⑩子ども」、「②社会教育」と続いた。(男性の母数が少ないため、男女に分けずにグラフを作成した。)

2012年10月3日

設問11経験した活動



2012年10月

発行／社会福祉法人三浦市社会福祉協議会 事務局長 出口道夫

〒238-0102 神奈川県三浦市南下浦町菊名 1258-3 三浦市総合福祉センター

TEL 046-888-7347 FAX 046-889-1561